

..... 編集後記 .....

◆ 今月号は、一般投稿して頂いた原稿をもとに全体を構成してみました。海外の地熱資源に関する報告が1件、国内外の動向調査に関する報告が2件、それに国内の地質に関する報告が2件です。二番目の動向調査に関する報告は、いままであまり掲載されなかった分野の記事と思われます。その一つは最近のレアメタルに関する鉱物資源開発の動向調査で、もう一つは国内の科学技術基本計画の動向調査です。いずれも、それぞれ詳しく分析され、良くまとめられています。このような報告は、今後の資源開発戦略や地質分野の研究指針を検討する上で、大変参考になるものと思われます。

◆ 玉生志郎はブルガリアの地熱・温泉開発について報告しています。開発における最大の阻害要因は、配管からの漏水や坑井・熱交換器等の老朽化にあると指摘しています。ブルガリアは来春にはEU加盟を果たす予定ですので、今後どのような経済政策が推し進められるのか注目されます。ブルガリアでの温泉利用の一例は表紙と口絵にも掲載されていますので、併せてご覧下さい。

◆ 堀 琢磨さんは、レアメタルの調達セキュリティ確保のための鉱種別戦略をまとめています。レアメタルの安定供給対策は、今までは備蓄が中心でありました。しかしながら、消費構造の変化や資源ナショナリズムの再燃などが懸念される情勢となったため、探鉱開発からリサイクルに至るまでの総合的な取り組みが必要になってきました。そこで、鉱種毎の特性を分析して、鉱種毎にどのような対策が有効であるか、大量のデータを用いて解析し、取りま

とめています。

◆ 宮崎光旗さんは、国の科学技術政策の根幹となる「第三期科学技術基本計画」に関する専門家のアンケート調査結果を、地質分野に限定して紹介するとともに、独自に解析・図解しています。その結果、地質分野の研究課題の特徴や政策的な位置づけが明確にされました。これによって、地質に関する研究テーマを客観的に見ることが可能となったと思われます。

◆ 須藤定久さんと有田正史さんは、シリーズ「砂と砂浜の地域誌(9)」として「室戸岬から甲浦・穴喰を訪ねる」を報告しています。いつもの砂浜や地質の説明以外に、海洋深層水が、なぜ室戸で取水されているか等も説明されています。観光旅行に行ったつもりで、気楽に読んでみて下さい。

◆ 磯部一洋さん・宮城磯治さんは、新島村博物館への研究協力の一環として、「新島村・伊豆諸島及び小笠原諸島の文献・雑録リスト」を紹介しています。インターネットのURLでも公開されていますので、多くの方が気軽に利用できます。このような情報公開は益々重要になってくると思われます。

◆ 以上の通り、今月号は通常とは若干異なった種類の原稿も掲載することができました。気楽に読める記事から、かなり身構えないと読めない記事まで、いろいろあります。これもそれぞれの個性と思って読んで頂けると幸いです。また、読後の感想などを事務局宛にお寄せ下さいませよう、併せてお願い申し上げます。

(玉生志郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：玉生志郎

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・七山 太・

光畑裕司・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

地質ニュース	第623号	2006年	7月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2006年7月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2006 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ